## 「この世界の片隅に」を通して、平和の大切さについて考える

**１　対象学年**　小学３年生

**２　ねらい**

戦後７０年が過ぎ、戦争の悲惨さや恐ろしさを知る人たちが減少し、戦争を知らない世代が増えてきている。日本では、過去の戦争により多くの被害を受け、多くの生命が失われてきた。また、現在も、イラクやアフガニスタン、シリアなどの国々では、戦争により多くの子どもたちが傷つき、命を落としている。このような時だからこそ、「二度と戦争を起こしてはならない」という思いを、後世へ伝えていく必要があると感じる。

戦争を知らない子どもたちが、各地で起きている紛争や出来事などを自分自身とも深い関わりがるここと捉え、平和についての意識を高めるためには、親しみやすい資料から戦争や平和について考えさせることが有効であろう。そこで、本実践では、２０１６年度日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞を受賞した映画「この世界の片隅に」を教材とする。この作品は、原爆や空襲で失われた町並みや食糧難による厳しい食生活を強いられる人々のくらしが忠実に描かれている。アニメーションを通して戦争や平和について考えさせることで、児童の興味関心を引くことができると考える。また、「この世界の片隅に」とあわせて、愛知県でも戦争によって苦しむ人々がいたことを知ることができる戦争体験記『焼け跡に立つ虹』や、原爆が落とされた当時の町並みや被害にあった人々の写真が掲載されている朝日新聞社「知る原爆」を用いることで、戦争や平和についての考えを広げていきたいと思う。

本実践を通して、戦争を知らない子どもたちが、家族の命や住む場所を奪う戦争の悲惨さを知り、二度と戦争をしてはいけないという思いをもち、当たり前の日々の尊さについて感じるさせたい。

**３　指導の流れ**

（１）準備

①映画「この世界の片隅に」

片渕須直監督・脚本のアニメーション映画である。２０１６年公開された。主人公すずが、戦時下の困難の中にあっても工夫を凝らして豊かに生きる姿を描いている。原爆や空襲で失われた町並みや食糧難による厳しい食生活を強いられる人々のくらしが忠実に描かれている。

②戦争体験記『焼け跡に立つ虹』「おなかがすいて」１７６−１７８頁

戦争体験者が、当時の暮らしの様子を記した文章。戦争が激しくなり、食料も乏しくなり、食べたくても食べることのできない状況が生まれているということがよく分かる文章である。

③新聞記事「知る原爆」

朝日新聞社が、子どもたちが戦争について知るきっかけとして出版している、教育特集「知る原爆」である。原爆が投下された広島、長崎の当時の写真や原爆についてのＱ＆Ａ、映画「この世界の片隅に」の原作を描いた漫画家 こうの史代氏のインタビュー、被爆者が亡くなる直前に記したメッセージなどで構成されている。

（２）指導計画（２時間完了）

第１時

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| １０分 | １　食事シーンの並べ替えクイズを行う。<br>・食事の量が少ないから、一番古いんじゃないかな。<br>・着ているものや家が古いから、一番古いと思う。<br>・予想と違った。何かあったのかな。<br>・戦争でご飯が少なくなったんだね。 | ○　食事シーンの並び替えクイズを行うことで、児童の興味関心を高める。<br>昭和９年夏 <br>昭和１９年３月 <br>昭和２０年５月 <br>昭和２０年１１月 |
| | せんそうをしているときの食生活について考えよう。 | |
| １５分 | ２　実際に食べて、戦時中の食生活に触れる。 | ○　戦時中の食事を実際に用意することで、戦時中の生活について考えることができるようにする。 |
| ５分 | ３　戦争体験記「おなかがすいて」を読む。 | ○　戦争体験記「おなかがすいて」を範読することで、戦争により、愛知県でも食べたくても食べることができない状況があったことを知る。 |
| １０分 | ４　実際に戦争中の食生活を体験してみて、感じたことをワークシートに書き、発表する。<br>・食べるものがどんどん減ってる。<br>・あまりおいしいものではない。 | ○　コの字隊形にすることで、お互いの意見が聞きやすくなるようにする。 |
| ５分 | ５　本時を振り返り、次時への見通しをもつ。 | ○　次時への見通しをもつことができるように、映画を見ながら戦時中の食生活について考えていくということを伝える。 |

第２時

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| ５分 | １　映画「この世界の片隅に」について知る。 | ○　「この世界の片隅に」が戦時下の暮らしが描かれた映画であることを伝える。 |
| | 「このせかいのかたすみに」を見て、平和の大切さについて考えよう。 | |
| ２０分 | ２　映画「この世界の片隅に」を視聴する。 | ○　戦時中の食生活をよりイメージできるように、児童に見せる映像を抜粋しておく。 |

| | | |
|---|---|---|
| １０分 | ３　新聞記事「知る原爆」を読む。<br>・戦争って恐いんだね。<br>・毎日ご飯が食べられて幸せ。 | ○　「この世界の片隅に」で描かれていたものが、実際に起こった出来事であると感じさせるため、新聞記事「知る原爆」を用意する。 |
| １０分 | ４　本時を振り返る。<br>・戦争は絶対に嫌だなと思う。<br>・ずっと平和でいてほしい。 | ○　二度と戦争をしてはいけないという思いや当たり前の日々への感謝などを書いた児童の感想を紹介する。 |

## ４　実践のまとめ

### （１）第１時　戦時中の食生活について考える

写真１　クイズを行う様子

授業の導入で、「この世界の片隅に」に出てくる食事のシーン４枚（昭和９年夏、昭和１９年３月、昭和２０年５月、同年１１月）を古い順に並び替えるクイズを行った。（写真１）一番古い写真を選んだ際に、「食事の量が少ない」「着ているものや家が古い」という理由で昭和２０年１１月の写真を古い時代の写真だろうと予想した児童がほとんどであった。しかし、実際は昭和９年の方が戦時中と比べ、豪華な食事をしているのにもかかわらず年代の古い場面であったため、児童から驚きの声が挙がった。このような声や児童の姿から、関心をもってクイズに取り組むことができたと考える。食事シーンの並び替えクイズを行った後、「戦争」があったことで食事の量が減ってきたということを児童に伝えた。

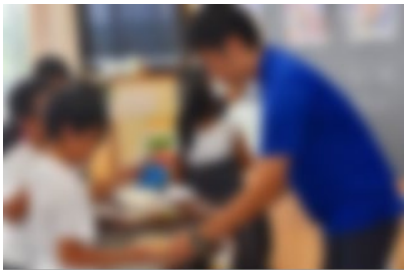


写真２　楠公飯をもらう様子

次に、「この世界の片隅に」にも実際に出てくる「甘藷餅（かんしょもち）」と「楠公飯（なんこうめし）」を食べた。（写真２）「甘藷餅」を食べたとき、「味が薄い」といった声が聞こえた。「楠公飯」を食べる際、炊飯器の蓋を開けると、教室中に「楠公飯」のにおいが広がった。そのにおいを嗅いだら、「おいしそう」という声が挙がったが、実際に食べてみると「まずい」「味がない」「おいしくない」といった声が多く聞こえた。このことから、食事を通して、戦時中の食糧難について体験的に学ぶことができたと考える。

また、戦争体験記「焼け跡に立つ虹」を読み、戦争が激しくなるにつれ、食料も乏しくなり、食べたくても食べることのできない状況が生まれているということを知った。そして、戦時中の食生活について考えたことを発表した。児童の感想から、戦時中の厳しい食生活について知ることができたと感じる。児童の中には、現代の生活と比べながら考えることができた児童もいた。（資料１）

・じっさいにせんそうをした人はどう思ったかはわからないけど、今日食べたものをむかしの人が食べているのだったら、自分もすききたいという理由で食べたり食べなかったりすることはしないだろうと思った。
・いまきてるふくが絵とくらべたら、すっごいごうかだなと思いました。だから、今のじだいにうまれてよかったなと思いました。
・二度とせんそうが起きないようにしたい。
・今日からすき、きらいは言わないように、食事を食べたいです。せんそうはこわいなぁと思いました。

資料１　児童が書いた感想

### （２）第２時　「この世界の片隅に」を見て、平和について考える

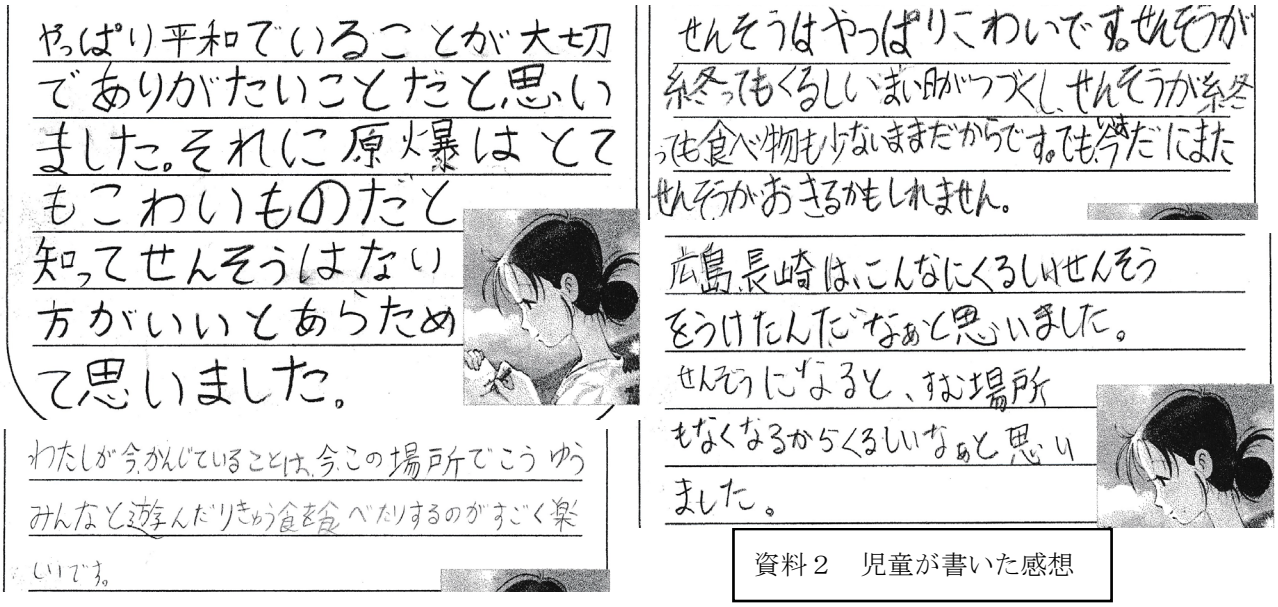
戦時中の広島県呉市を主な舞台とした映画であることを児童に伝えると、「怖そう」という声が聞こえた。児童の中に、「戦争＝怖い」というイメージが少なからずあると感じた。「この世界の片隅に」を見始めると、真剣に映画を見ていた。（写真３）中でも、地面に潜りこんでいた時限爆弾が爆発し、義姉の子どもが爆風に呑まれて死んでしまう場面では、悲しい顔をしたり顔を背けたりする児童の姿が見られた。映画を通して、戦争の悲惨さやつらさを感じている様子がうかがえた。

写真３　映画を見ている様子

映画を見た後に、朝日新聞社の特集「知る原爆」を読んだ。（写真４）新聞記事の中には、当時の破壊された街並み、きのこ雲の様子、被爆した兵士たちの写真などが載っており、戦争についてより深く知ることができた。映画を視聴し、新聞を読んで考えたことをワークシートに書くときに、「知る原爆」を活用して考える児童も多かった。このことから、「知る原爆」の活用は、児童の戦争や平和についての考えを広げる上で、有効であったと考える。

写真４　「知る原爆」読む様子

そして、ワークシートに書いた感想を発表した。児童の感想から、家族の命や住む場所を奪う戦争の悲惨さについて深く考えることができたと感じる。また、戦争を二度としてはいけないという思いや給食を食べたり、遊んだりする当たり前の日々の尊さについて考えることのできた児童もいた。（資料２）




資料２　児童が書いた感想

## ５　実践の成果と今後の課題

**【成果】**

実践後、新聞記事を切り抜いて模造紙にまとめる活動の際に、「平和」をテーマに新聞記事を集める児童や図書室で「平和」に関する図書を借りて読む児童の姿があった。また、１学期と比べ、２学期の方が給食を完食する回数が増えてきた。以上のことから、本実践の成果を以下にまとめた。

○　「この世界の片隅に」の食事シーンの並び替えクイズを行ったことは、戦争を知らない児童の興味関心を抱かせるのに有効であった。

○　映画の中に出てくる食事を実際に食べることは、戦時中の苦しい生活を体験的に考えることができ、効果があった。

○　戦争体験記を読むことは、戦時中の厳しい食生活を深く知るのに有効であった。

○　爆弾による被害の様子を映画で見たり、当時の破壊された街並みやきのこ雲の様子、被爆した兵士たちの写真を見たりすることは、戦争の悲惨さをより深く知ることができ、平和の大切さについての考えを広げるのに効果があった。

**【課題】**

●　児童の感想の中には「戦争はこわい」という抽象的な記述にとどまり、児童どうしの交流を図る必要がある。

## ６　実践を終えて

今でも、世界のどこかで内戦や自爆テロ等が起きている。そのような現状からも、本実践を通して、戦争を知らない子どもたちが、戦争の悲惨さや、平和の大切さについて考えられたことは意義深いと考える。本実践をきっかけに、各地で起こっている紛争や出来事などを他人事と考えず、平和についての意識をさらに高めていってほしいと考える。

# せんそうをしているときの食生活についてかんがえよう。

３年　　組　　番　　名前（　　）

せんそうをしているときの食生活を知り、じっさいに食べてみて感じたこと、考えたことを書きましょう。

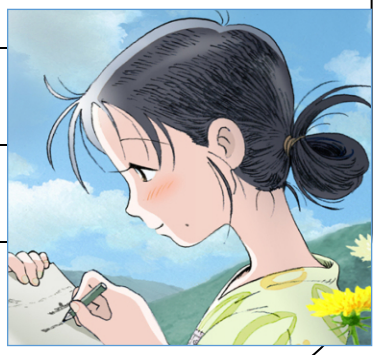
ふりかえり

# 平和の大切さについてかんがえよう。

３年　　組　　番　　名前（　　）

「このせかいのかたすみに」を見て、考えたことを書きましょう。

たとえば
せんそうによって当たり前の毎日がなくなってしまったこと、平和の大切さ、など。



ふりかえり

# おなかがすいて

柳　孝尚

まい日、おなかがすいていた。せんそうがはげしくなると、食料がくばられなくなることがあった。そんな時、親たちは水やお茶をのんで、少ない食べ物を育ちざかりの子どもたちにあげた。それでも、子どもたちはやせていった。

学校のべんとうの時間に、こめのごはんを持って来られるものは少なかった。たいていのものは、さつまいもやむぎがたくさん入ったぞうすいを持って来た。それすら持って行けず、べんとうの時間には、教室から出て学校の近くのじん社で時間をつぶしたこともあった。

しょくりょうがあまりないというのが、せんそうが終わってもつづいた。